

患者の皆様へ

当院では、保有する既存試料・情報を用いて下記の研究を実施しております。このような研究の実施に当たっては、研究対象者の方に研究の参加を拒否する権利が保障されております。(オプトアウト)
この研究に関するお問い合わせなどありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。
尚、研究又は他の研究機関への患者さんのデータ提供は、研究実施許可日から研究終了日の期間に行います。

記

研究機関名	市立豊中病院
研究実施許可日	2023年 10月 17日
研究終了日	2025年 12月 31日 まで
研究の名称	未治療進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するプラチナ製剤＋ペメトレキセド＋ペムブロリズマブの効果に関わる因子についての多施設共同後向き研究
研究対象	2018年12月から2020年6月末までに進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌と診断されプラチナ製剤＋ペメトレキセド＋ペムブロリズマブで初回治療を開始した方。
対象材料	病理材料 診療記録
対象期間	2018年12月から2020年6月末まで
研究の目的意義	プラチナ製剤＋ペメトレキセド＋ペムブロリズマブ療法は抗がん剤と免疫療法を併用した治療法になります。このような治療は免疫複合療法と呼ばれ何種類かが保険承認されており、最も効果がある治療法の一つとなっており長期効果が期待されています。しかし長期効果がみられる患者さんの特徴は完全に解明されているとは言えないのが実情です。 上記のように、長期効果がみられる患者さんの特徴は完全に解明されていません。しかし、ペメトレキセドの効果予測因子として、がん組織をTTF-1という抗体で染色される場合に効果が高いとされています。またPD-L1という抗体で染色される場合もペムブロリズマブの効果が高いとされています。そのほか特定の因子を組み合わせることで、効果がどれくらい期待できるかの判断材料になる可能性があります。
方法	カルテから集められた情報(年齢、性別、治療内容など)を匿名化した上で、調査ファイルに入力します。入力した調査ファイルは研究事務局で送付され、パスワードをかけた上で厳重に保管されます。 データを集積後、匿名化を保ったまま、生存期間などについて解析します。
個人情報の取り扱い	この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表いたします。発表に際し患者さんのお名前など個人が特定できる情報を使用することはありません。
問い合わせ先 (研究責任者)	市立豊中病院 呼吸器内科 森村 治 TEL06-6843-0101 (研究事務局)大阪はびきの医療センター 肺腫瘍内科 佐藤 真吾